

英語科 授業実践

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-08-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026734

英語科 授業実践

1 題材名 “Break the Language Barrier!”

— 思いや考えの伝え合いを積み重ねた相互理解的議論 — (第3学年)

2 題材の目標

異文化をもつ人々とのコミュニケーションに漠然とした困難を感じている子どもたちが、思いや考えをわかりやすく伝え合うための表現を工夫しながら、来日する外国人と言語の問題について英語で議論を積み重ねていくことで、異文化・異言語をもつ人々とのコミュニケーションについて考えを深めることができる。

3 題材観

(1) 異言語を介してかかわること

日常のコミュニケーションにおいて、私たちは単に事実や情報の授受をしているだけでなく、頻繁に思いや考えも伝え合っています。互いの思いや考えには、その人の感情や信念、価値観などがにじみ出ており、そのやりとりが相互理解を深め、豊かな人間関係を構築していくことにつながっているとと言えるでしょう。言葉を介して思いや考えを伝え合うことは、自分とは異なる考え方や文化をもつ相手の思いに寄り添いながら、相手を理解し、受け入れようとするものであり、さらには自分の考えを理解してもらおうとするものでもあります。

① 異文化・異言語をもつ人々と私たち

近年、日本において、日本語以外の言語を話す外国人が多くなってきています。また、私たちが海外に出かけたり、日本語が堪能でない人とコミュニケーションしたりする機会も増えてきています。その際、英語をはじめとした異言語を話すこともあるでしょう。相手が異言語を話す人であれば、考え方や文化の違いはさらに大きく感じることもあり、とりわけ言語を介してのコミュニケーションが難しくなることが予想されます。そして、言葉が通じにくい、という理由だけで、相手とのコミュニケーションをあきらめてしまったり、相手とコミュニケーションを図ることに恐怖を感じ、かかわろうとさえしなくなったりしてしまう状況も考えられます。しかし、母語ではない言語を介してコミュニケーションを図る際に、伝えることが難しい言葉の裏にある思いを必死にくみ取ろうとしていくことや、言葉は不十分であっても、相手が伝えようとしている考えを尊重しようとしていくことで、「文化や言語の壁」を越えたコミュニケーションが図られます。最初は「壁」だと感じ

られた異文化や異言語が、私たちと異文化・異言語をもつ人々とを強くつなぐでしょう。

② 文化や言語の壁を乗り越える

異文化や異言語をもつ人々とかかわる際には、必ず言語の壁が立ちます。単に相手が話す言語の知識を得たり、簡単な会話を翻訳できる機器を用いて一方的に目的を果たそうとしたりするだけでは、この壁は大きく立ちのびたまま、相互理解していくことは難しいでしょう。言語は、人と人をつなぐものであり、聞き手と話し手が、互いの伝えたいことを推し量りながら主体的にかかわるために使っていくものです。臆せず話しかける、笑顔で話す、わかったふりをせず聞き返す、あきらめないで伝える、覚えた言葉を積極的に使うといった姿勢により、異言語を話すことに固執せず同じ目的を楽しむ機会が生まれ、互いの文化についての議論を楽しむことにもつながるでしょう。

スピーチフォーラムの一つである TED で、17歳の超多言語話者として登場した Tim Donar は

“Learning a language is learning to communicate with people, learning about foreign cultures. Knowing a language is a



lot more than knowing a couple of words out of a dictionary. You can translate words easily, but you can't quite translate meaning.”と訴えました。Timに限らず、私たちが異言語を学ぶことは、実際のコミュニケーションの中で、異言語を介してコミュニケーションを図ることの難しさや異文化をもつ人とかかわることへの不安を乗り越えることです。また、実際に人とかわりながら相手の言葉の奥にある思いや考えを理解し、異言語を

話す人々の文化を受け入れていくことでもあるのです。このように、異言語を学ぶことは世界中で様々な文化をもち、様々な言語を用いて生きる人々の思いを知ろうとすること、そのものであると言えるでしょう。



(2) 異文化・異言語

を話す人々とのかかわりについて考えること

私たち日本人が外国に行くと、異言語があふれる世界に圧倒されながらも、必死で商品を注文したり、その土地で出会った人とのちょっとした会話を楽しんだりすることもあります。このように異言語を話す人とのつながりを感じていく一方で、異文化・異言語に対する違和感がコミュニケーションを消極的にしたり、異文化・異言語をもつ人々に対して偏見や差別をもたせたりしてしまう状況があることも実感することがあり、時としてヘイトスピーチなどの異文化問題にまで発展するケースもあります。

①異文化・異言語をもつ人々の思いに寄り添う

その国に滞在するのであれば、現地の言葉を流ちょうに話すべきかという問題は、多様な文化・言語をもつアメリカでは、時や場所を選ばず、大きな問題となっています。アメリカのabc NEWSが制作している社会派ドッキリ番組“WWYD? (What Would You Do?)”で放送された、あるヒスパニック系親子に対する言語差別問題が、アメリカ国内で話題となりました。番組内では、英語が堪能な娘役と、スペイン語しか話せない母親役がテキサスのレストランで英語が話せないことを理由に“Use English. This is America.” “You can’t order coz you can’t read English. Go back to your country.”のような暴力的な言葉をから浴びせられ、冷酷な差別を受けるという場面を演じました。これが番組だと知らない周囲の人々は、親子を守るために、次々と立ち上がり、「皆同じようにこの国に住む資格がある」「『アメリカ語』じゃない、『英語』なんだ」「お前だって外国に行けばその土地の言葉を学ぶだろう。彼らは学んでいる最中なんだ」「ありのままの他人を受け入れるのが特に重要な」と、それぞれの異文化や異言語に対する思いや考えを涙ながらに伝え合い、親子を理解しようと努め、異言語を話す人の思いに寄り添いました。様々な文化をもち



多様な言語を話す人々が集まるアメリカでは、その歴史の中で多様性を認めることが大切にされており、その価値を学ぶために英語以外の言語を学ぶ人も少なくありません。言語を学ぶことで、異文化を知り、異言語を話す人の思いを知ることが大切だと考えられているからとも言えるでしょう。そして、こういった異文化・異言語をもつ人々が集まってきているのはアメリカだけではありません。私たちの住む日本においても、多様な文化・言語をもつ人々と共にどのように平和や幸せを築いていくのか考えるべき時が来ているのです。

②異言語を話す人々とのかかわりについて議論する

オリンピックが2020年に東京で開催されることが決定し、来日する外国人も年々増えてきています。様々な観光施設や飲食店では英語表記のメニューを用意し、英語や中国語での対応を始めています。来日する異言語を話す人の中には、片言ではありながらも「アリガトウ」「コンニチワ」「〜ハドコデスカ?」のような日本語を学び、日本人とコミュニケーションを楽しもうとしています。私たちの中にも、片言の英語と日本語まじりの表現で、異言語を話す人と必死に思いを伝えようとする人の姿を多く見かけるようになりました。その一方で、外国人だからという理由で排除しようとしたり、日本語を話すことができないのではないかという偏見から、かかわりを拒んだりする人も少なからずいることも事実です。

異言語を話す人とのかかわりについて英語で議論することは、日本で異言語を話す人々や私たちが外国で異文化に対してどのようにふるまうべきかを考えていくきっかけになっていくでしょう。

言語の壁を感じた経験があるからこそ、言語の壁を乗り越えた先にある、人とのあたたかいつながりは、尊いものとして互いの人生を豊かにしていきます。そして、言葉では伝えきれない相手の思いに寄り添うべき私たちの姿勢を問い直し、私たち一人一人が異文化・異言語をもつ人々とのようにかかわっていけばよいのか、さらには、日本の今後のあるべき姿について考える第一歩となっていくでしょう。

③異言語で相互理解的議論をするために

母語ではない英語で理解していることを伝え合いながら、議論を深めていくには、話し手と聞き手が上手に伝え合うことが難しいからこそ、思いや考えをわかりやすく伝える表現や、聞き手が理解していることを積極的に示す姿勢が必要となるでしょう。例えば “I agree with you, but you don’t have to be afraid.” “I think so. It’s also difficult for me to talk to new people.”のように、

相手の考えを聞いた後に、賛同したり共感したりしてから自分のことを話せば、聞き手が理解してくれたことを感じ、さらに本音を話したくなるでしょう。また、“People from other countries should speak Japanese in Japan because they can enjoy Japanese culture more.”や“You can enjoy Japanese culture without Japanese. For example, there are many English signs in Japan now.”など、理由や例を明確に示すことも、相手が理解できるように努める工夫の一つだと言えるでしょう。

また、相手の思いに寄り添いながら “What do you think?” や “I mean, smile is important because it’s a good way to connect people, right?” のように話し手の真意をくみ取ろうとしたり、相手が理解できていないと感じれば、相手がわかるような言葉を選んでいくような伝え方も、異文化・異言語をもつ人々とのコミュニケーションには必要なことでしょう。伝わったり伝わらなかったりする経験を実際のコミュニケーションの中で実感していくことで、聞き手として、言葉だけでなくジェスチャーを活用したりうなづいたりしながら理解を示していく姿勢にもつながります。このような経験をたっぶり積み重ねていくことで、異文化・異言語をもつ人々の思いや考えを理解しようとする心情が主体的にかかわっていきこうとする姿勢や言葉にも反映されていくことでしょう。

4 該当する学習指導要領の内容

(1) 言語活動

ア 聞くこと

(エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。

イ 話すこと

(イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。

(エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。

5 授業実践

(1) 異文化・異言語をもつ人々の思いに寄り添う

授業者は子どもたちに “What is the most useful Japanese word or sentence for people from other countries when they come to Japan?” と尋ねました。すると、子どもたちは、“Arigato” “～wo, kudasai” “Doumo” など、お礼や買い物に使う短い日本語を挙げました。そこで授業者は、Cathy Cat という日本在住のアメリカ人レポーターが、日本に滞在している外国人に、実際に使ってみて便利だと感じる日本語についてインタビューをしていく動画を子どもたちと共に観ました。動画の中で、“I only

(3) 子どもたちと異文化コミュニケーション

子どもたちの住む町でも、異言語を話す人や異文化をもつだろうと思われる人を見かけることが増えていきます。地図を持ってスマートフォンと格闘している外国人や、家の近くに引っ越してきた異文化をもつ人と出会ったとき、子どもたちはどのようにかかわっていくのか、判断を求められます。子どもたちにも、主体的に異文化をもつ人々とかかわっていくことができる機会が訪れるということでしょう。どのような言葉話すのか、どのような考えや価値観をもっているのか、はじめは戸惑う子どもたちも、きっとそれぞれの方法で相手の思いを確認し、豊かな人間関係の構築につなげていくことでしょう。また、自分の経験や判断をもとに、人と人がつながるコミュニケーションを図ろうとする子どもたちは、文化や言語の壁を越えたあたたかいつながりを周囲の社会へ広げていくことも可能です。

子どもたちは、思いや考えを必死で伝えようとする中で、失敗や誤解を多く経験していくからこそ、伝わった喜びを実感し、母語ではない言語を学ぶ価値に気づきます。異文化をもつ人々と主体的にかかわろうとするそのような姿勢が、言語や人種、思想や価値観の壁を打ち破り、多様な文化を受け入れながら、人々とあたたかい社会をつくっていく子どもたちの姿を願っています。

know ‘Arigato’ and ‘Kanpai.’” “ ‘Oishi.’ Because we had a good food last night. We tried to understand how to say what’s really good.”と外国人が説明していたり、“ ‘Oishi’ helped you yesterday with the communication?”というレポーターとのやりとりもあったりすることで、これらの日本語が互いのコミュニケーションを円滑にしていくことを感じたようでした。子どもたちは動画を観ながら、以下のようなことをつぶやいたり仲間と話したりしました。

- ・「どこですか」が「どこですく」に聞こえる。日本語の発音は難しいのだろう
- ・ Many people can't speak Japanese well.
- ・「どこですか」は旅には欠かせない
- ・外国人の視点で初めて日本語のことを考えた
- ・“Arigato”はみんな知っている、感謝が一番最初に覚えたい言葉なのだろう
- ・私たちが英語を話すときも、このように少し変に聞こえているのだろうか。心配になったなど

ここで授業者から、“Do you have any good Japanese words to have a good time in Japan?”と尋ねました。子どもたちは、来日する外国人の立場に立って、具体的な場面を想定しながら、便利だと考える日本語を思い思いに挙げていきました。以下は子どもたちが伝え合った「外国人にとって便利な日本語」とその理由です。

- ・ Arigato---No one doesn't want to be said.
- ・ Arigato---We help someone and someone help us. If we tell someone “Arigato,” that person feels relieved.
- ・ Yabai---If you have troubles, you use this word. You'll be saved.
- ・ Sorena---This means “I agree.” It's easy to be friends.
- ・ Don-mai---This makes people happy when someone makes mistakes.
- ・ Itadakimasu---This isn't used in foreign languages. It's a unique Japanese word. など

子どもたちは様々な日本語を挙げていく中で、「一言で気持ちが伝えることができて簡単」「相手が嬉しくなる」「日本にしかない独特な言葉」「1語で様々な状況に対応できる」などを理由として共有していきました。外国人にとって、日本語を少し使うとコミュニケーションが楽しくなることと同時に、自分たちが外国に行ったときに話す英語は、少し変に聞こえているのではないかと不安になっていることを話す子どもたちもいました。また、日本語のもつ美しさや独特な言い回しに気づき、日本語のよさを再認



識する姿も見られました。以下は子どもたちが書いた授業の振り返りです【詳細は資料1】。

- ・ 私は英語ができなくて発音も下手だけど、日本語ができない外国人目線で考えることができた。動画のほとんどはあいさつだったけど、あいさつは、やはり大事だと感じた
- ・ Japanese is much more difficult than English. But Japanese can tell my feeling more than English.
- ・ Takuma's idea is amazing. We were imaged by the word. Japanese original word makes us special feelings.
- ・ I think new words are very enjoyable, but we should treasure some traditional words.
- ・ There are many words that you can't say in the exact way you want to in English. They are unique and you can understand their culture from those words.
- ・ こうしてカタコトでもいろいろな国の人と話すことができるのはおもしろいと思った など

来日する外国人が日本語を話すことに肯定的な思いが多いことを確認したところで、授業者は“So, when you go to America, do you want to speak English, too?”と尋ねました。自信をもって「話したい」と語る子どももいれば、「上手に話せないから、恥ずかしい」と話す子どももいました。そこで授業者は、「アメリカにも英語がうまく話すことができない人がいること」「アメリカに住む人々は英語を話すことができない人のことをどう思っているか」を次の時間に考えていくことを伝えて授業を閉じました。

(2) What Would You Do?-あなたならどうする-

授業者はアメリカの“What Would You Do?”というテレビ番組を子どもたちに紹介しました。番組の中で、周囲の人々は英語をうまく話すことができない親子を救おうする姿に、感動して目を潤ませる子どももいました。「よい話だ」「私も英語をまだうまく話すことができないが、助けてもらえるだろうか」「英語が話せないことで差別されてはいけない」と、異言語に対する様々な考えをもち始めた子どもたちに、“How about in Japan? Do you think people from other countries should speak Japanese?”と問いかけました。子どもたちは以下のように思いを仲間と共有しました。

- ・カタコトの日本語でもコミュニケーションはできる。まったく話さないのは苦しいだろう
- ・英語でも日本人とはコミュニケーションできる。日本人も英語を勉強している人が多い
- ・Japanese is difficult. I think they don't have to speak perfect Japanese.
- ・Most Japanese people can't speak English. So they have to speak Japanese to communicate.

など

様々な意見があることを確認し、授業者は「外国人は日本では日本語を話すべきだ」についてみんなで考えていくことを伝え、次時に入りました。

(3) 仲間と思いや考えを伝え合う

「外国人は日本では日本語を話すべきだ」という話題に関して、自由な立場で話し合っていくことを提案しました。授業者からは“外国人向けの旅行質問”ウェブページ「日本の旅は日本語を話さないで難しいか」という資料を準備し、子どもたちに配付しました。



子どもたちは「外国人は日本では日本語を話すべきだ」という話題に関して、メモに書かれた内容をもとに、ペアやグループで自由に考えを伝え合い、様々な価値観にふれていきました。また、聞き返したり相手が理解しているか確認したりしながら、聞き手にわかりやすく伝わるような表現の工夫を学んでいく子どももいました。外国人には日本語を話してもらいたい、日本語を使うことで仲良くなれる、と伝える子どももいれば、日本人も英語を話すことで歩み寄るべきだ、彼らの言語を尊重するべきではないのか、というような話題についても話されていました。子どもたちの話し合いは次のように進みました。

【日本語を話さなくてもよい】

They don't have to speak Japanese because Japanese is difficult to learn. Young people can speak English, so we can help them.

【日本語を話した方がよい】

I think they should speak Japanese. Many Japanese people can't understand English and speak English.

【日本語を話した方がよい】

I think so, too. Japanese is a Japanese culture. They should study Japanese culture, too.

【話さなくてもよいが……】

They don't have to speak Japanese, but if they speak Japanese, I'm happy. I want them to know Japanese is beautiful.

子どもたちは、仲間と話し合いながら以下のような考えをもちました。【詳細は資料2】

- ・ I think they should speak Japanese. Japanese is beautiful. When they learn English, they will learn how Japanese people think and see things. So, they can enjoy life in Japan.
- ・ They need not to speak English. English is a universal language. Japanese people can speak easy English with them.
- ・ They don't have to speak Japanese, but if they speak Japanese, their trip will be more fun.
- ・ I think it's important to communicate with people, so if they can tell their thoughts, it doesn't matter what language they speak.
- ・ Japanese is beautiful words. I want many people to try to speak and learn Japanese.

など

ペアやグループで思いや考えを伝え合った後、全員で思いや考えを共有する時間を設けました。子どもたちが書いたメモをあらかじめ把握しておき、黒板に大きなカテゴリーを示しながら子どもたちの思いや考えを示しました。

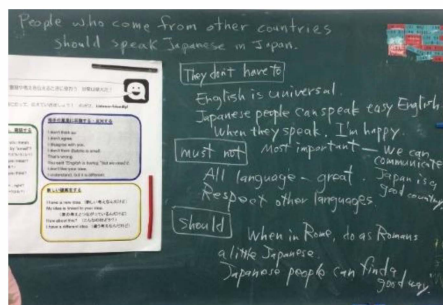
思いや考えを伝え合った子どもたちは、話し合いで挙がった話題について、次のような感想を書きました。

- I like languages because it's a tool for communication. Communication is important. I think all languages are great.
- Japanese people can't speak other countries' languages. American people can't speak Japanese well. But they effort to tell their opinions. They don't speak well, but I'm so happy.
- To respect other language is a good idea, but Japanese is a good language. I hope someday they can speak Japanese well.
- 言葉は違えど僕たちは同じ地球に住む人間。英語だから、日本語だから、でコミュニケーションがとれないわけない。自分の伝えたいことを一番伝わる形で話せばよい
- To try to speak other languages is important.
- I think everyone wants to make a better place in Japan.
- 言葉にいろいろな思いをみんながもっていてやはりコミュニケーションがとれれば、どの言葉を使ってもいいと思った
- It's difficult to learn languages. So, if the person who lives in other countries speak Japanese, I'm very happy.
- I want foreigners to speak Japanese because if they speak Japanese, they may like Japanese culture. I am happy that foreigners like Japanese culture.

子どもたちが書いた感想は英語・日本語にかかわらず紙面にして配付しました。子どもたちは様々な価値観を大切にしながら、思いや考えにふれることを楽しんでいました。記述の中には、「多くの人に



日本語を話してもらいたい。日本語のよさを知ってほしいから」「日本語は難しいから無理に話さなくてもよい。でも、もし話してくれると嬉しい」「日本語や英語は関係ない。どの言葉で



も伝えようとする気持ちがあればよい」というような、来日する人の立場にたって考える子どもが多く見られました。子どもたちの考えが、異文化・異言語をもつ人々とのかかわり方にぐっと近づいたことを確認したところで次時に入りました。

(4) 言語の壁を打ち破れ

ここまでに子どもたちは「外国人は日本では日本語を話すべきだ」について、異言語を話す人々の思いにふれながら議論を重ねてきました。子どもたちは言語の種類に関係なく、伝える気持ちがあればコミュニケーションは楽しめることや、異言語・異文化をもつ人が自分たちの文化を味わってくれることでさらにコミュニケーションを楽しめるのではないかと、という思いを共有しました。また、子どもたち同士が話し合いの中で感じた、多くの価値観にふれることが楽しい、理解してもらえて嬉しいといった感情も、異言語を話す人々の思いを知る過程の一つとなったようでした。

ここで、授業者は実際に静岡大学にインドから交換留学生として来日した Greeshma の日記を見せました。

I already knew that my host family likes Indian Curry. But still it was a shock to me that they absolutely loved curry!! We had a wonderful time cooking together and having a curry party, where I made even more friends! We went to a view point near Hamanako and it was an amazing trip. My mamasan(Reikosan) and me connected with each other so beautifully that we ended up talking till 2 in the morning! Keichan and me enjoyed playing legos and puzzles together. From all this, I have realized that to connect with someone all you need is the heart for it, and the birth country or culture or language is no barrier for it!

子どもたちは、Greeshma が文化や言語の壁を乗り越え、人とのつながりを楽しんでいる姿を想像したようでした。特にカレーパーティーを開催したことや、ホストファミリーと一緒に掛けたこと、そしてパズルやレゴで一緒に遊んだことなどがあたたかい関係づくりの要(かなめ)となり、言語や文化の壁を乗り越えたような思い出になっていることを感じた子どもたちが多かったようでした。ここで授業者は、

“You speak Japanese well, but your English isn’t perfect. When you see someone who doesn’t speak Japanese well, how can you break the language barrier?”というテーマで、これまでの話し合いをもとに、子どもたち一人一人がそれぞれの経験、思いや考えを言語の壁を打ち破るための方法に変えて、仲間に提案していくように促しました。子どもたちは、これまで議論を重ねてきたように、異文化・異言語をもつ人々への思いや考えを、Greeshmaの日記にあるような具体的なかかわり方と絡ませながら、自分らしいかかわり方を考えていきました。ここで授業者から子どもたちに、キーワードをカードに書くように勧めました。視覚的に伝えていくことで、英語で伝える際に心理的な不安を下げることに繋がり、英語での議論に参加しやすくなると考えられるからです。

Drawling / own idea	Playing game.	ANIME	Basketball	Came	Movie.
Traveling	Playing game.	Pick up / Mushroom	MUSIC	MUSIC	Gesture
Minocraft (java edition)	Game	Go shopping	What we love.	Movie.	Buddhism
Basketball	Picnic	Common hobby	Each countries	New language	Religion
Sports(group)	Go shopping	Same rule.	Movie.	Stone Soup	TWICE
Dancing?	Exciting game.	Pokémon	Tell my LINE.	OOD	Listening to music.
		Dance.	Listen to music.	Feelings	

キーワードカードをもって、子どもたちは仲間と積極的に意見交換をしていきました。仲間の独創的な考えや価値観にふれ、誰も思いつかないアイデアや、その人にしかできないかかわり方など、自分自身の価値観さえも揺り動かされるような考え方にも出会った子どもたちは、授業者と共に積極的に思いや考えを伝え合う中で、互いの伝えたい内容を押し量りながら、意見交換していくことを楽しんでいました。次の教室では、クラス全員で議論していく予定であることを告げて授業を閉じました。

本時の授業では、まず、授業者が子どもたちにキーワードリストを配付しました。前時で意見交換をしていない仲間のキーワードを見て、「え？なにこれ！」と声をあげたり、ニコニコしながら印をつけたりしている子どもを確認したところで、まだ意見交換できなかった仲間と話してもいいことを伝えました。キーワードを頼りに、聞いてみたい仲間のもとへ次々と話をしに行く姿が見られました。子どもたちは以下のような話をしました。

T(name) : I think we should play Pokemon together. It’s easy to talk about games because we can enjoy the same topic.

N(name) : My keyword is ANIME. Now anime is very popular all over the world. It’s loved by everyone. We can enjoy talking about it.

T(name) : Yes, same topic is nice to talk.

ここで授業者から、全員で議論していこう、となげかけました。授業者は黒板にキーワードカードを貼りながら、子どもたちの意見の要点を黒板に示し、子どもたちの発言に耳を傾けました。時折、英語で即興的に上手に伝えることができず、日本語になってしまったり、止まってしまう子どもに

は、授業者から伝えやすい表現に変えて質問したり、対話の相手になっている子どもに思いを英語で代弁したりしながら、自由に思いや考えを



伝えていく姿勢を大切にしました。以下は子どもたちの実際の議論に、授業者も足場かけをしながら加わっている会話の一例です。

(Keyword: New language)

R: I think “New language” is good because we need one language to be friends. We should make a new language.

S: But we speak English. English is...英語という共通の言葉があるのに。

T(Teacher): So you think English is a common language in the world, right?

S: Yeah, we should speak English to make them happy in Japan. English is spoken all over the world.

(Keyword: Picnic)

R: I’d like to go on a picnic with them. We could cook together, talk, play,...I mean, spending time together is very important.

S: It’s very fun. My keyword is Stone Soup. It means “Potluck party,” and people can enjoy cooking and eating food together. Food can go over the wall. Food is a common language to me.

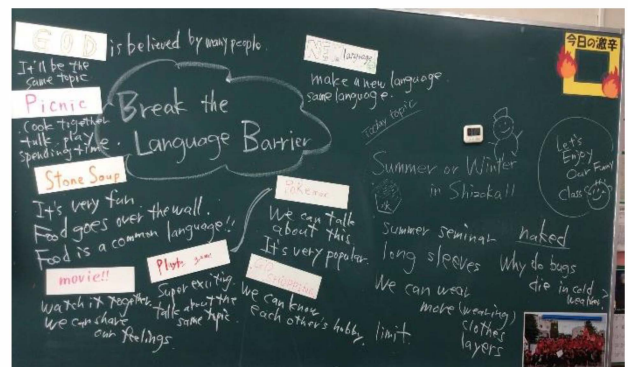
子どもたちは黒板に示されたり、既に仲間が伝えたことを活用しながら、自分の考えを伝えていきました。聞いている子どもたちも、うなづいたり、“Oh.”とうなづいたりしながら、考えを伝え合うことを楽しんでいました。キーワードはそれぞれ異なっていますが、異言語・異文化をもつ人とかかわる際に、相手の立場に立って接することや一つのことを楽しむことで言葉の壁を乗り越えていくことができる思いを共有していきました。キーワードを“Movie”と考えた子どもは、“We can share our feelings. To share something, the language isn't important. Our heart.”と伝えながら、share や heart, feeling というような言語の先にある思いや気持ちにかかわる英語表現を用いて、自分なりの異言語・異文化をもつ人への思いを伝えていく姿がありました。思いや考えを伝え合った子どもたちは、以下のような感想を書きました。

- We play sports and break the language barrier. We play them without speaking, but we have the same rule. If we eat delicious food, we only say “delicious”, and we enjoy it together.
- If we play games with people from other countries, we don't have to understand each other's language. We can talk about the same topic. Play games and we can be friends easily.
- Knowing about each other is important to break the language barrier. If we like each other's culture, we can talk about it. To know about each other is talking what we love.
- If there's only one language in the world, it's easy for us to live, but there are a lot of languages now. If we want to break it, we should not use only one language.
- You can do many things together. There are many ways to break the barrier!
- Learning languages is very difficult, but it's important to take communication. I think if we learn another language, we may learn cultures in the countries.
- sports, games,...we don't need any languages to enjoy them. But we can't break the language barrier by only them. So we should study English. If we can speak English, we can have enough communication.

• There are many languages in the world. English is spoken in many countries, but people in some countries use their own languages. I think it is good to try to break the language barrier, but even if we can't do this, other people may feel our challenges. We should have a smile all the time and try to communicate with other people.

など

子どもたちは言語を学ぶ難しさを感じながらも、言語だけではないコミュニケーションのあり方を、互いの英語のやり取りを通して学んだようでした。キーワードに書かれている子どもたちの具体的なかかわり方は、言語の壁を打ち破っていく方法の一つになりうるでしょう。



子どもたちが仲間に英語で思いや考えを伝える際に、即興的に英語で伝えられずもどかしい思いをしたり、相手の伝えたいことを推測したりすることで、例え言葉が上手に伝わらないときも、相手の思いや気持ちを大切にして話すことの価値を実感したことでしょう。また、同じ時間を共有したり、数少ない言葉を介しながら同じことを楽しんだりすることで、異言語・異文化の違いさえも楽しみながら、言葉を超えて人と人とが繋がっていくことができるという思いももったことでしょう。

子どもたちが、世界中に生きる異言語・異文化をもつ人々に思いを馳せながら、多様な人々や文化との出会いを楽しみ、手を取り合いながら共にあたたかい社会をつくっていく姿を願い続けていきたいと思えます。

【資料1】 Do you have any good Japanese words to have a good time in Japan?

Do you have any good Japanese words to have a good time in Japan?

"^(いadakimasu) ITADAKIMASU" is good
because "ITADAKIMASU" isn't used in foreign country. Its Japanese unique word.

Do you have any good Japanese words to have a good time in Japan?

" Arigato " is good
because we help someone and someone helps us. If we falls someone "Arigato", I think that person feels relieved. Because they feel that their help is good for us.

Do you have any good Japanese words to have a good time in Japan?

" Arigatou " is good
because no one doesn't want to be said "Arigatou" by someone and "Arigatou" makes everyone's happy.

Do you have any good Japanese words to have a good time in Japan?

" ありがとう " is good
because if you help your friends, maybe if your friends tell me "ありがとう", you feel so good. You can use this word, when you help your friends or your friends help me.

Your comment, please. (Batcho loves your unique idea.)

I think it is difficult for other country people to tell us what they are thinking in Japanese.
3A members have very interesting

Your comment, please. (Batcho loves your unique idea.)

Last weekend, I went to USJ and Osaka. There were a lot of foreign people. These days, we can see many foreign country's words. For example, in the train, in the station and so on. It's good for foreign country people but I want to save Japanese
意味伝わる?? 外国語多いのには良いけど日本語も by Japanese people

Reflection

Your comment, please. (Batcho loves your unique idea.)

私は英語ができてきて羨ましく思っている。外国人も日本語が話せたい。相手国言葉が書けることができた。ビデオで外人が話していたことばかりのほかに、かあさんが話したのどいさつてない。だから、あらためて感じました。

Your comment, please. (Batcho loves your unique idea.)

Japanese is much more difficult than English. But Japanese can tell my feelings more than English.

Your comment, please. (Batcho loves your unique idea.)

Jakuma's idea was amazing. His word make us fun and smile. I think we were imaged by the word. 入心するな-と思ってた。 Japanese original word makes us special feelings.

授業内の「メモ」

子どもたちは自分の思いや考えを伝え合う前に一度可視化して、伝えるための準備をしました。仲間と伝え合う際、はじめは読んでいる子どもも、相手を替えて話していくうちに、紙を見なくても話せるようになっていきました。

授業の振り返り

感想や振り返りは「英語でも日本語でもよい」と伝えてあります。1年生から英語で書く子どももいます。感想を紙面にして配付したり、教師からのコメントを英語で伝えたりしていくことで「英語でも伝えられる」ことを子どもたちは実感していきます。

【資料 2】 People who come from other countries should speak Japanese in Japan!?

What do you think about this?

- ① I think they don't have to speak Japanese because they must be able to speak Japanese better than their useful language. I think they can't tell and understand their opinions. They have to talk only feeling and gestures.
- ② It's too difficult for them to speak that they can't understand.

Great

Japanese is too difficult to speak for them. We (Japanese people) can understand.



Nice (unique) ideas from friends

I think that it's important to communicate with people, so if they can tell their thoughts, it doesn't matter what language they speak.

What do you think about this?

- ① I think that people who come from other countries don't have to speak Japanese in Japan, because when we go to Osaka, we don't speak Osakaben to talk my family and people lives in Osaka. I think that it's important to communicate with people, so if they can tell their thoughts, it doesn't matter what language they speak.



Nice (unique) ideas from friends

You have a great idea. That's true. English? Japanese? We don't have to speak "no language" to enjoy communication.

What do you think about this?

- ① They should speak Japanese. Because Japanese is Japanese culture. ← Great!!!
- ② They should study Japanese culture. I think so, too. To learn culture is to learn languages.



They should speak Japanese. Because Japanese is Japanese culture. They should study Japanese culture.

I think they should speak Japanese in Japan. Japanese is beautiful. They will learn how Japanese people think and see things. So they can enjoy Japanese life in Japan.

What do you think about this?

- ① I think they should speak Japanese in Japan.
- ② Japanese is beautiful, when they learn Japanese.
- ③ They will learn how Japanese people think and see things. So they can enjoy life in Japan. Wonderful! You have a warm heart. This is very important. Why we study English "too"



Nice (unique) ideas from friends